

領 域	専門分野(小児看護学)	開講時期	2年前期									
科 目 名	小児看護学概論	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)									
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①甲斐 有美子 (元専任教員 14年)											
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>小児期にある対象の特徴、看護の特徴と役割について理解する。小児の正常な成長発達、各期の特徴、小児保健の動向と小児に関する保健医療福祉制度小児看護の理念、小児看護の場の特徴と多職種協同、特別な状況にある小児についてについて理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td>           I.小児看護の対象の特徴            1. 子どもの特徴              1) ライフサイクルからみた子どもの特徴と発達課題                (1) 乳児期 (2) 幼児期 (3) 学童期 (4) 思春期            2. 小児看護の対象としての家族              1) 子どもにとっての家族                (1) 家族とは                  ①家族の機能 ②健康な家族                (2) 現代家族の特徴                  ①少子化 ②核家族化 ③女性の就労率の上昇                  ④離婚率の上昇 ⑤家族の意識・役割の変化              2) 家族アセスメント                (1) 家族の構造的側面 (2) 家族の機能的側面                (3) 子どもの発達段階別家族アセスメント                (4) さまざまな状況の家族         </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3・4</td> <td>           II.小児各期の成長と発達            1.成長発達とは              1) 成長とは 2) 発達とは              3) 発達の領域                (1) 身体的機能                (2) 知的機能：記憶・思考の能力、言語・コミュニケーション能力 *ピアジェの認知発達理論                (3) 情緒・社会性：人や集団との関係性を築く能力                  *ボウルビィのアタッチメント理論                  エリクソンの自我発達理論            2.成長発達の一般的原則              1)方向性・順序性              2)急速な時期と緩慢な時期 *スキヤモンの発育曲線            3.成長・発達に影響する因子              1)遺伝的因子 2)環境的因子         </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1・2	I.小児看護の対象の特徴 1. 子どもの特徴 1) ライフサイクルからみた子どもの特徴と発達課題 (1) 乳児期 (2) 幼児期 (3) 学童期 (4) 思春期 2. 小児看護の対象としての家族 1) 子どもにとっての家族 (1) 家族とは ①家族の機能 ②健康な家族 (2) 現代家族の特徴 ①少子化 ②核家族化 ③女性の就労率の上昇 ④離婚率の上昇 ⑤家族の意識・役割の変化 2) 家族アセスメント (1) 家族の構造的側面 (2) 家族の機能的側面 (3) 子どもの発達段階別家族アセスメント (4) さまざまな状況の家族	講義	3・4	II.小児各期の成長と発達 1.成長発達とは 1) 成長とは 2) 発達とは 3) 発達の領域 (1) 身体的機能 (2) 知的機能：記憶・思考の能力、言語・コミュニケーション能力 *ピアジェの認知発達理論 (3) 情緒・社会性：人や集団との関係性を築く能力 *ボウルビィのアタッチメント理論 エリクソンの自我発達理論 2.成長発達の一般的原則 1)方向性・順序性 2)急速な時期と緩慢な時期 *スキヤモンの発育曲線 3.成長・発達に影響する因子 1)遺伝的因子 2)環境的因子	講義
回	授業内容	授業方法										
1・2	I.小児看護の対象の特徴 1. 子どもの特徴 1) ライフサイクルからみた子どもの特徴と発達課題 (1) 乳児期 (2) 幼児期 (3) 学童期 (4) 思春期 2. 小児看護の対象としての家族 1) 子どもにとっての家族 (1) 家族とは ①家族の機能 ②健康な家族 (2) 現代家族の特徴 ①少子化 ②核家族化 ③女性の就労率の上昇 ④離婚率の上昇 ⑤家族の意識・役割の変化 2) 家族アセスメント (1) 家族の構造的側面 (2) 家族の機能的側面 (3) 子どもの発達段階別家族アセスメント (4) さまざまな状況の家族	講義										
3・4	II.小児各期の成長と発達 1.成長発達とは 1) 成長とは 2) 発達とは 3) 発達の領域 (1) 身体的機能 (2) 知的機能：記憶・思考の能力、言語・コミュニケーション能力 *ピアジェの認知発達理論 (3) 情緒・社会性：人や集団との関係性を築く能力 *ボウルビィのアタッチメント理論 エリクソンの自我発達理論 2.成長発達の一般的原則 1)方向性・順序性 2)急速な時期と緩慢な時期 *スキヤモンの発育曲線 3.成長・発達に影響する因子 1)遺伝的因子 2)環境的因子	講義										

回	授業内容	授業方法
3・4	<p>4.形態的・機能的発達</p> <p>1)形態的発達  (1)身長・体重 (2)頭囲・胸囲 (3)生歯 (4)骨の発育  (5)思春期の身体の変化</p> <p>2)機能的発達  (1)循環器系 (2)呼吸器系 (3)消化器系 (4)泌尿器系  (5)体温 (6)睡眠 (7)免疫 (8)神経・反射 (9)運動機能</p> <p>5.成長・発達の評価</p> <p>1)成長の評価  (1)パーセントイル (2)カウプ指数 (3)ローレル指数</p> <p>2)発達の評価  (1)デンバー発達判定法 他</p>	講義
5・6	<p>Ⅲ. 小児保健の動向と保健医療福祉制度</p> <p>1.小児保健の動向（諸統計からみた子どもと家族の健康課題）</p> <p>1) わが国の人口構造</p> <p>2) 出生と家族  (1) 出生数、合計特殊出生率 (2) 出生と母親の年齢、世帯構造</p> <p>3) 子どもの死亡  (1) 周産期死亡 (2) 乳児死亡 (3) 子どもの死因</p> <p>2.保健医療福祉制度</p> <p>1) 子どもと家族を取り巻く社会資源の活用  (1) 児童福祉 (2) 医療費の支援 (3) 予防接種  (4) 学校保健 (5) 食育 (6) 特別支援教育</p>	講義
7	<p>Ⅳ.小児看護の特徴と役割</p> <p>1. 小児医療・小児看護の変遷と課題</p> <p>1)小児医療の変遷と課題  (1)小児医療の変遷 ①小児医療の進歩 ②QOL の向上  (2)小児医療の課題  ①入院施設の減少・小児専門医の不足  ②未熟児の出生数の増加  ③小児難病患者の成人期以降の QOL</p> <p>2)小児看護の変遷と現代の小児看護  (1)小児看護の変遷  (2)現代の小児看護  ①実践の場の多様化 ②健康レベルの多様化</p> <p>2. 小児看護の目ざすところ</p> <p>1) 小児看護の目標と役割</p> <p>2) 小児看護の場の特徴と多職種協同  (1) 病院 (2) 在宅・家庭  (3) 保育園・幼稚園・学校 (4) 施設</p>	講義

回	授業内容	授業方法
7	3.小児看護における倫理(小児医療・小児看護における倫理的配慮) 1) 子どもの権利 (1) 児童憲章 (2) 児童の権利に関する条約 2) 医療現場でおこりやすい問題点と看護 (1) 医療における治療の選択と意思決定 ①アドボカシー ②インフォームドアセント (2) 子どものケア (重要な倫理原則)	講義
8	3)特別な状況にある小児と家族 (1)虐待をうけている子どもと家族 ① 子どもへの虐待の特徴 ② 虐待のリスク要因と虐待の早期発見 ③ 虐待の未然防止に向けての支援 ④ 多機関・多職種連携の連携・協働 (2)災害による子どもへの影響とストレス ① 急性ストレス障害 ②心的外傷後ストレス障害(PTSD)	講義

#### 授業の進め方

小児の特徴を理解し、小児看護の基本的な考え方を学ぶ。さらに小児の正常な成長発達と各期の特徴、小児保健の動向と小児に関する保健医療について学習する。講義（VTRも使用）と演習で授業を進める。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 専門 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
2. 国民衛生の動向 2022/2023年版(厚生統計協会)

#### 評価方法

筆記試験



回	授業内容	授業方法	担当講師
1～7	11)救急 (1)主な事故と外傷 ①頭部外傷(虐待の内容も含む) ②誤飲・誤嚥 ①中毒 ④熱傷 ⑤熱中症	講義	①
8～10	II.健康課題のある子どもと家族に応じた看護 <急性期にある子どもと家族への看護> 1.急性期にあるこどもの特徴 2.急性期にある子どもの家族の特徴 3.急性症状にある子どもと家族への看護 1)不機嫌・啼泣 2)痛み (1)子どもの痛みの受け止め方 (2)痛みの表現方法 (3)痛みの客観的評価 (4)痛みの緩和に向けた援助 3)発熱 4)脱水 5)下痢・嘔吐 6)呼吸困難 7)痙攣 4.救急救命処置が必要な子どもと家族への看護 1)子どもの救急におけるトリアージと対応 2)子どもの意識レベル 3)主な誤飲物質と処置 4)子どもの熱傷の特徴・重症度および処置 5)溺水と処置 6)子どもの一時救命処置 7)生命が危険な状況にある子どもと家族への援助	講義 講義	③
11・ 12	5.手術をうける子どもと家族への看護 1)子どもの手術 (1)子どもの手術の特徴 (2)手術を要する健康障害と手術の時期 (3)計画手術、緊急手術 (4)日帰り手術 2)手術前・手術後の子どもと家族への援助 (1)手術前の援助 ①手術の決定と承諾 ②発達段階に応じた説明 ③術前のアセスメント (2)手術中・手術後の援助 ①術後合併症の予防 ②異常の早期発見 ③苦痛の緩和 ④不安の緩和 (3)退院に向けた援助 ①日常生活の注意点 ②家族への退院指導 (4)家族の気持ちと援助	講義	④
13	<慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護> 1.慢性期にあるこどもの特徴 2.慢性期にある子どもの家族の特徴 3.先天的問題をもつ小児と家族への看護 1)先天異常の種類と特徴 2)子どもの発達段階に応じた援助 3)子どもの疾患に対する家族の理解と受容 4)養育とケア技術獲得に関する家族への援助	講義	⑤

回	授業内容	授業方法	担当講師
14	4. 心身障害のある子どもと家族への看護 1) 心身障害の定義と種類 2) 家族と子どもの障害の受容 3) 重症心身障害児と看護 4) 医療的ケアの必要な超重症児と家族 5) 発達障害児と家族	講義	⑥
15	<終末期にある子どもと家族への看護> 1. 終末期にあるこどもの特徴 2. 終末期にある子どもの家族の特徴 3. 子どもの死の理解と看護 1) 子どもの死の捉え方 2) 死に対する子どもの反応 4. 子どもと家族への緩和ケア 1) 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア 2) 子どもの死を看取る家族の反応	講義	④

授業の進め方

それぞれ事例を加えながら、視聴覚教材などを用いて説明をしていく。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)  
: ③④⑤
2. 系統看護学講座 専門 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論(医学書院) : ①②⑤⑥

評価方法

筆記試験

領 域	専門分野（小児看護学）	開講時期	2年後期
科 目 名	小児看護方法論Ⅱ	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	菅谷 愛美（別府医療センター・小児診療看護師・看護師25年）		

<科目目標>

小児各期の対象に必要なアセスメントと看護技術、治療処置をうける対象に必要な看護を理解する

<内容>

	授業内容	授業方法	担当講師
1～4	I. 小児各期の対象に必要なアセスメントと看護技術 1. 身体的アセスメント 1) アセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション ①言語の発達と認知機能の発達 ②遊びの活用 (2) バイタルサイン測定 (3) 身体測定 (4) 小児各期の身体的アセスメントの特徴 ①一般状態      ②眼      ③耳 ④顔面・鼻・口腔   ⑤呼吸      ⑥心臓・血管系 ⑦腹部      ⑧筋・骨格系   ⑨神経系 ⑩生殖器      ⑪リンパ系 ⑫皮膚・爪・体毛	講義 演習	①
5～7	2. 小児各期における日常生活の援助のアセスメントと援助方法 1) 食事 (1) 乳児期：栄養と離乳 (2) 幼児期：基本的生活習慣の獲得と食生活と食育 (3) 学童期・思春期：食生活と食育 2) 排泄 (1) 乳児期 (2) 幼児期：トイレトレーニング (3) 学童期・思春期 3) 睡眠 (1) 乳児期：睡眠パターン (2) 幼児期 (3) 学童期 4) 環境 (1) 乳児期 (2) 幼児期 (3) 学童期・思春期 5) 運動と遊び (1) 乳児期 (2) 幼児期 (3) 学童期・思春期	講義	①

	授業内容	授業方法	担当講師
5～7	6) 感染予防と事故防止 (1) 乳児期 (2) 幼児期 (3) 学童期・思春期 7) 家族の育児観と家族への支援 (1) 乳児期 (2) 幼児期 (3) 学童期・思春期	講義	①
8～10	II. 治療・処置を受ける子どもに必要な看護 1. 病気や診療・入院が子どもと家族へ与える影響と看護 1) 病気に対する子どもの理解と説明 (1) 病気に対する子どもの理解と特徴 (2) 子どもの理解に関係する要因 (3) 発達に応じた病気の説明 (4) インフォームド・アセント 2) 病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護 (1) 成長・発達に及ぼす影響 (2) 病気や診療・入院に伴うストレスと影響要因 (3) 子どもの反応とストレス対処行動 3) 子どもの病気や診療・入院が家族に及ぼす影響と看護 (1) 子どもの病気や診療・入院に伴うきょうだい・家族のストレス (2) きょうだい・家族のストレスの支援 4) 入院中の子どもと家族の看護 (1) 入院環境と看護の役割 (2) 入院中の子どもと家族の特徴 (3) 入院中の子どもと家族の看護 ① 治療過程を支える看護 ・ 不安・恐怖・苦痛の緩和 ・ 活動制限が必要な子どもへの援助 ② 入院生活を支える看護 ・ 日常生活への支援 ・ 遊びや学習の支援 2. 外来における子どもと家族の看護 1) 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 (1) 外来における緊急度の把握 2) 外来の環境 (1) 外来における感染症対策 3) 外来受診する子どもと家族の特徴 4) 外来における子どもと家族の看護 (1) 受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 (2) 健康診査・育児相談	講義	①



回	授業内容	授業方法	担当講師
11～13	3. 治療・処置をうける子どもと家族への看護 1) 子どもへの説明と同意 (1) 検査・処置をうける子どもの体験 (2) 子どもが納得することの重要性 ①子どもへの説明と同意：プレパレーション (3) 子どもへの最善の援助と説明 2) 子どもの安全・安楽の援助 (1) 最小限の侵襲 (2) 痛みの緩和 (3) 安全の確保 (4) プライバシーの確保 (5) 生活リズムへの配慮 3) 子どもの力を引き出す援助 (1) 緊張を高めなにかかわり (2) 検査前・中・後のかかわり 4. 小児各期の発達段階に応じた検査・処置への援助 1) 与薬 2) 輸液療法・注射 3) 抑制 4) 検体採取 ①採尿・採便 ②採血 ③骨髄穿刺 ④腰椎穿刺 5) 経管栄養 6) 吸引・吸入 7) 酸素療法	講義	①
14・15	5. 活動制限・感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 1) 活動制限が必要な子どもと家族への看護 (1) 活動制限の目的 ①安静療法 ②ギプス固定・シーネ固定 (2) 活動制限の身体的・心理社会的影響 ①身体的・心理発達への影響 ②基本的生活習慣への影響 (3) 子どもの発達に応じた日常生活の援助 2) 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 (1) 隔離の目的・方法 ①感染症の患児 ②易感染状態にある患児 (2) 隔離の身体的・心理社会的影響 ①身体的苦痛 ②心理・社会的苦痛 (3) 子どもの発達に応じた日常生活への援助 (4) 家族の面会や付き添いにおける援助	講義	①

#### 授業の進め方

「Ⅰ. 小児各期の対象に必要なアセスメントと看護技術」では、基礎看護学（フィジカルアセスメント）・小児看護学概論（小児の成長・発達の特徴）の学習内容を活用しながら、子どもの身体的アセスメントに必要な看護技術について学ぶ。子どものアセスメントを行う際に発達段階に応じた言語の獲得状況に合わせた関わりが必要である。患児の緊張をほぐすために遊びなどを取り入れながらコミュニケーションを図っていく具体的方法を学ぶ。

「Ⅱ. 治療・処置を受ける対象(子ども)に必要な看護」では、基礎看護学（診療時援助技術）、小児看護学概論方法論Ⅰの子ども理解と特徴を活用する。患児の発達段階に応じた関わりをもとに、検査・処置・手術を受ける患児への具体的な援助方法について学ぶ。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
2. 系統看護学講座 専門 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)

評価方法

筆記試験

領 域	専門分野 (小児看護学)	開講時期	2年後期
科 目 名	小児看護方法論Ⅲ	単 位 数 (時間数)	1 単位 15 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①甲斐 有美子 (元専任教員 14年)		

<科目目標>

急性期、回復期、慢性期、終末期にある子どもと家族の発達段階、健康の段階を考慮した必要な看護展開を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1～4	<p>1. 急性期・回復期にある子どもと家族への看護            &lt;事例：川崎病 乳児期 9か月&gt;</p> <p>1) 対象の理解            (1) 急性的な経過をたどる疾患の特徴と治療</p> <p>2) 疾病・治療の経過と健康段階</p> <p>3) 生命維持・生体機能の安定            (1) 子どもの生命の危機に対する身体管理            (2) 正確な身体状況のアセスメントと迅速ケア</p> <p>4) 安全の確保            (1) 治療上安静のための薬物投与            (2) 輸液管理(ルート管理、抜去予防)</p> <p>5) 苦痛の緩和            (1) 身体的苦痛や不快の予測            (2) 声かけ・タッチング            (3) 環境調整</p> <p>6) 子どもへの倫理的配慮</p> <p>7) 家族の看護            (1) 子どもの現状の受け止め            (2) 治療の意思決定にむけての支援            (3) 正確な情報提供</p> <p>8) 退院に向けた援助</p>	講義 演習
5～8	<p>2. 慢性期にある子どもと家族への看護            &lt;慢性事例：ネフローゼ症候群 学童期 8歳&gt;</p> <p>1) 対象の理解            (1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療</p> <p>2) 疾病・治療の経過と健康段階</p> <p>3) 病気や入院が成長発達に及ぼす影響            (1) ステロイドの副作用            (2) 疾患による子どもと家族の生活の変化            (3) 学習支援・復学支援</p> <p>4) 退院に向けた援助            (1) 発達に応じたセルフケア能力の獲得            (2) 家族への支援            (セルフケア能力獲得のための養育と家族への支援)</p> <p>(3) 社会資源の活用            (小児慢性特定疾患治療研究事業) (地域との連携・調整)</p>	講義 演習

#### 授業の進め方

急性期では、子どもと家族の状況を考慮して川崎病の乳児の事例を用いる。小児看護方法論Ⅱの治療・処置を受ける子どもと家族に看護において学んだ知識を活用する。臨床判断を用いながらアセスメントし、苦痛の緩和の援助を実施する。

慢性期では、ネフローゼ症候群の学童の事例を用い問題解決活用法、薬物療法と看護を理解するために長引く入院や、副腎皮質ホルモン剤の内服が患児の生活・成長発達に及ぼす影響を考え、必要な援助を導き出す。学童期の患児にとって学習支援や復学支援の援助、家族への支援が必要なことをアセスメントし、発達段階に応じた援助を実施する。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 専門 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
2. 系統看護学講座 専門 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論(医学書院)
3. 看護診断ハンドブック 第11版 リンダ・J・カルペニート (医学書院)
4. 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第4版(医学書院)

#### 評価方法

1. レポート評価
2. 講義参加状況